

釧路市の

概況

2

1 地勢

本市は、北海道の東部に位置し、全国でも有数の広大な行政面積を有しています。また、飛び地を含むという地理的特性を持っています。本市域を流れる釧路川、新釧路川、阿寒川、仁々志別川、音別川等の各河川の流域には、市街地が形成されています。さらに、森と湖、火山、河川、湿原、海などの多彩で雄大な自然に恵まれています。

また、これらの恵まれた自然環境や港湾機能に支えられながら農業、林業、水産業、鉱工業、観光業、商業など様々な産業が発展し、ひがし北海道の中核拠点都市となっています。

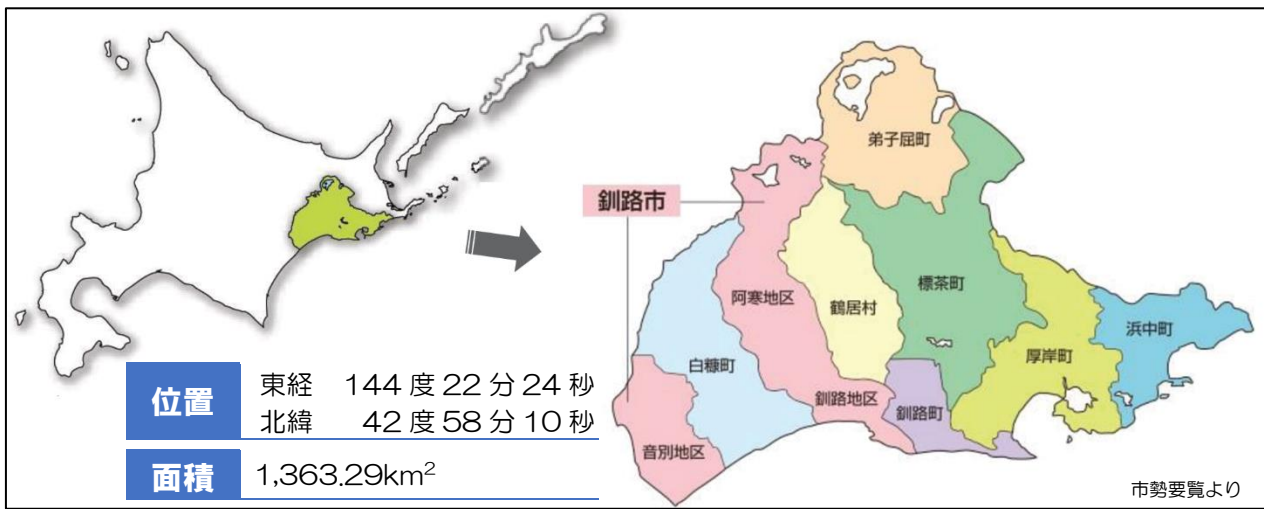


図 本市の位置図

2 人口

本市の人口は、2015年（平成27年）国勢調査で174,742人、世帯数82,078世帯となっています。人口の推移をみると、1980年（昭和55年）まで増加傾向にありましたが、その後は減少しています。世帯数については2000年（平成12年）までは増加し、2005年（平成17年）には一旦減少傾向に転じましたが、2015年（平成27年）には再び微増しています。

また、平均世帯人員は2.13人と減少傾向が続いており、核家族化、少子化の進行、単身世帯の増加といった世帯形態の変化が要因と考えられます。

なお、市の人口ビジョン及びまちづくり基本構想では2040年（令和22年）の人口目標を138,000人としています。

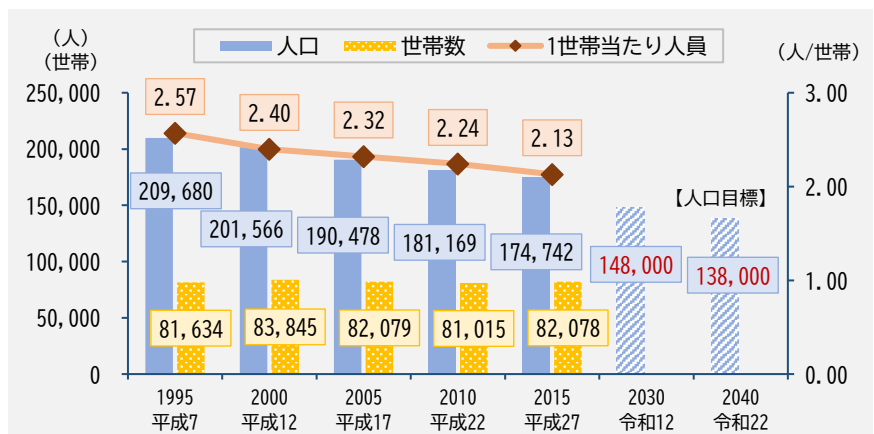


図 本市の人口・世帯数の推移

平成17～27年は国勢調査、
令和12、22年は『釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略』より

3 気象

本市の気候は、寒流の影響を受け、一般に冷涼です。冬期間の寒さは厳しい反面、積雪はそれほど多くありません。夏は海霧が発生しやすく、日照時間が少ないため、夏季における年平均気温は 18℃前後となります。秋は晴天が続く、冬は快晴が多く、乾燥した日が続きます。降水量は年間 1,100mm前後となっています。

また、内陸に位置する阿寒湖畔地域では、釧路地域と比べ、年間を通して寒暖の差が大きく、降雪量が多いことが特徴です。

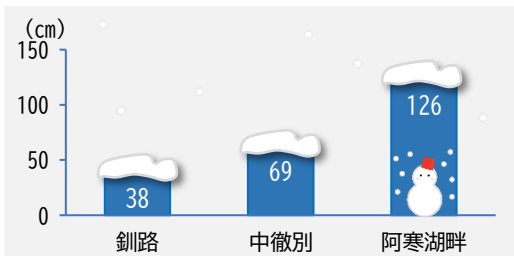


図 地域別積雪量平年値 (1981~2010年)
※ 中徹別は 1988 年、阿寒湖畔は 1986 年より統計開始

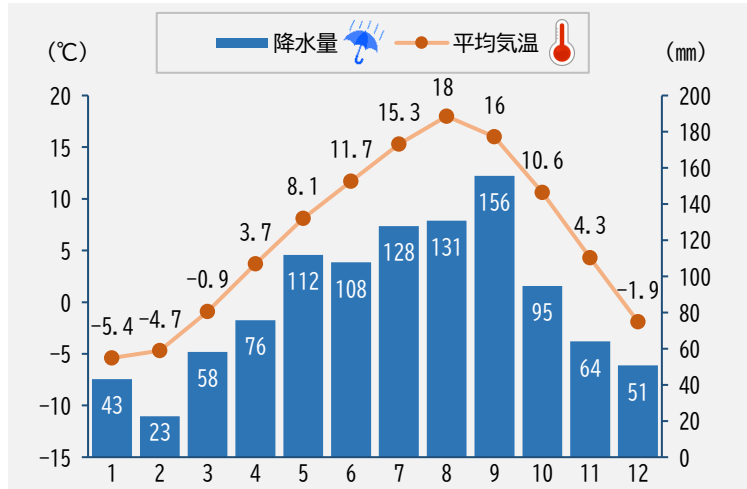


図 月別平均気温と降水量の平年値 (1981~2010年)

気象庁気象統計情報より

4 地形と地質

本市の地形は、太平洋に面する海岸線、その背後の丘陵地と台地、低地、北部の火山地などからなっています。

①丘陵地・台地の地形

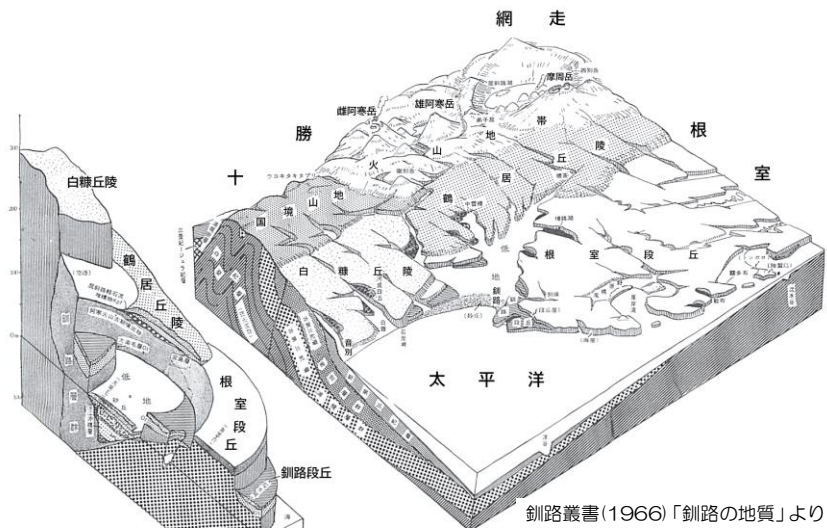
釧路川の東部には根室段丘と呼ばれる海岸段丘が広がっています。また、釧路湿原の北西部に鶴居丘陵、西部には白糠丘陵が釧路平野を取り囲むように分布しています。さらに、これらより一段低い釧路段丘が低地に接しています。

②低地の地形

低地は、海岸線の砂丘地とそれに連続する河口域の沖積地、そして釧路湿原の泥炭地で構成されています。また、仁々志別川、阿寒川、音別川、尺別川沿いの低地には、農耕地に適した平野が広がっています。

③火山地の地形

火山地は、阿寒地域の北部に広がり、雌阿寒岳をはじめとする火山ほか、カルデラ湖の阿寒湖、パンケトー、パンケトーなどの湖沼が点在しています。



釧路叢書(1966)「釧路の地質」より

図 地形地質概念図

5 産業

本市の産業は、平成 27 年国勢調査の結果によると、就業者数は 74,840 人で産業別構成は、第 1 次産業 2.2%、第 2 次産業 18.3%、第 3 次産業 73.2%、分類不能の産業 6.3%となっています。

■第 1 次産業

国内有数の水揚げ量を誇る漁業、後背圏の酪農、畜産をはじめとする農業、豊富な森林資源を有する林業が中心となっています。

表 第 1 次産業の概要

水産業	水揚げ量	年間 11~14 万 t
林業	素材生産量	年間 4 万 m ³
農業	作付面積	9365.43ha
	乳用牛	13,689 頭
	肉用牛	6,137 頭
	採卵鶏	104,715 羽

※ 農業は 2015 年農林業センサスより

■第 2 次産業

石炭鉱業の生産量は、年間 31~61 万 t で推移しています。

製造業は、パルプ・紙・紙加工品製造業が中心であり、平成 30 年工業統計調査では、製造品出荷額 2,337 億円のうち 31.3%を占めています。

■第 3 次産業

小売業の年間販売額が平成 28 年経済センサス-活動調査で 1,987 億円となっています。

観光客入込数は 2011 年（平成 23 年）から増加傾向にあり、2017 年度（平成 29 年度）からは 500 万人を超えています。



図 観光客入込数

6 土地利用

■土地利用の状況

本市の 2019 年（平成 31 年）における土地利用状況は、山林が 16%、農地が 6%、原野が 3%、牧場が 3%、宅地が 2%、雑種地が 1%、池沼が 1%未満、その他（公有地、道路、保安林等）が 69%となっています。

このうち、森林面積は本市の総面積の約 7 割を占めており、木材の生産だけではなく、国土の保全、水源のかん養、地球温暖化の防止や生物多様性の保全、観光資源としての美しい景観など様々な役割を果たしています。

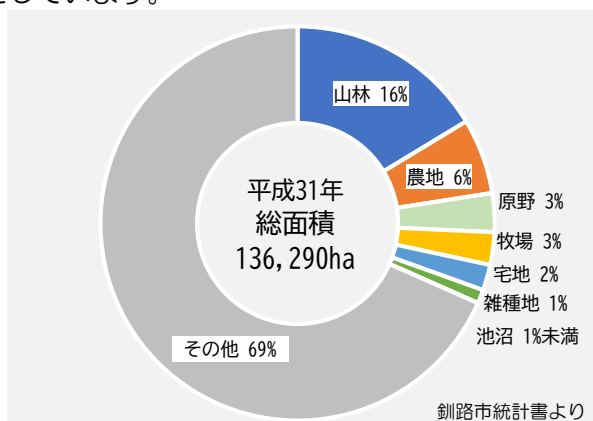


図 地目別面積

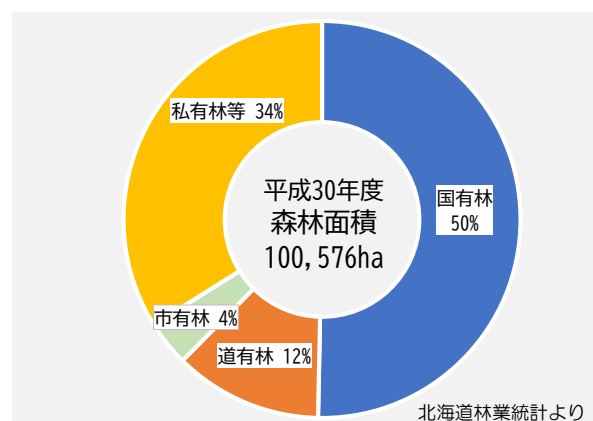


図 森林面積

※ 山林とは課税対象となる「耕作の方法によらないで竹木の生育する土地」
 なお、公有地や保安林は「その他」に含まれる

■ 国立公園と鳥獣保護区の指定

本市の釧路地域北部を流れる釧路川に沿って展開する釧路湿原が「釧路湿原国立公園」に指定、阿寒地域北部の阿寒湖を含む全域が「阿寒摩周国立公園」に指定されています。

鳥獣保護区は 7 か所が指定されており、このうちの 1 か所は国の釧路湿原鳥獣特別保護地区に指定され、一定の開発行為が規制されています。

なお、釧路湿原と阿寒湖はラムサール条約登録湿地です。

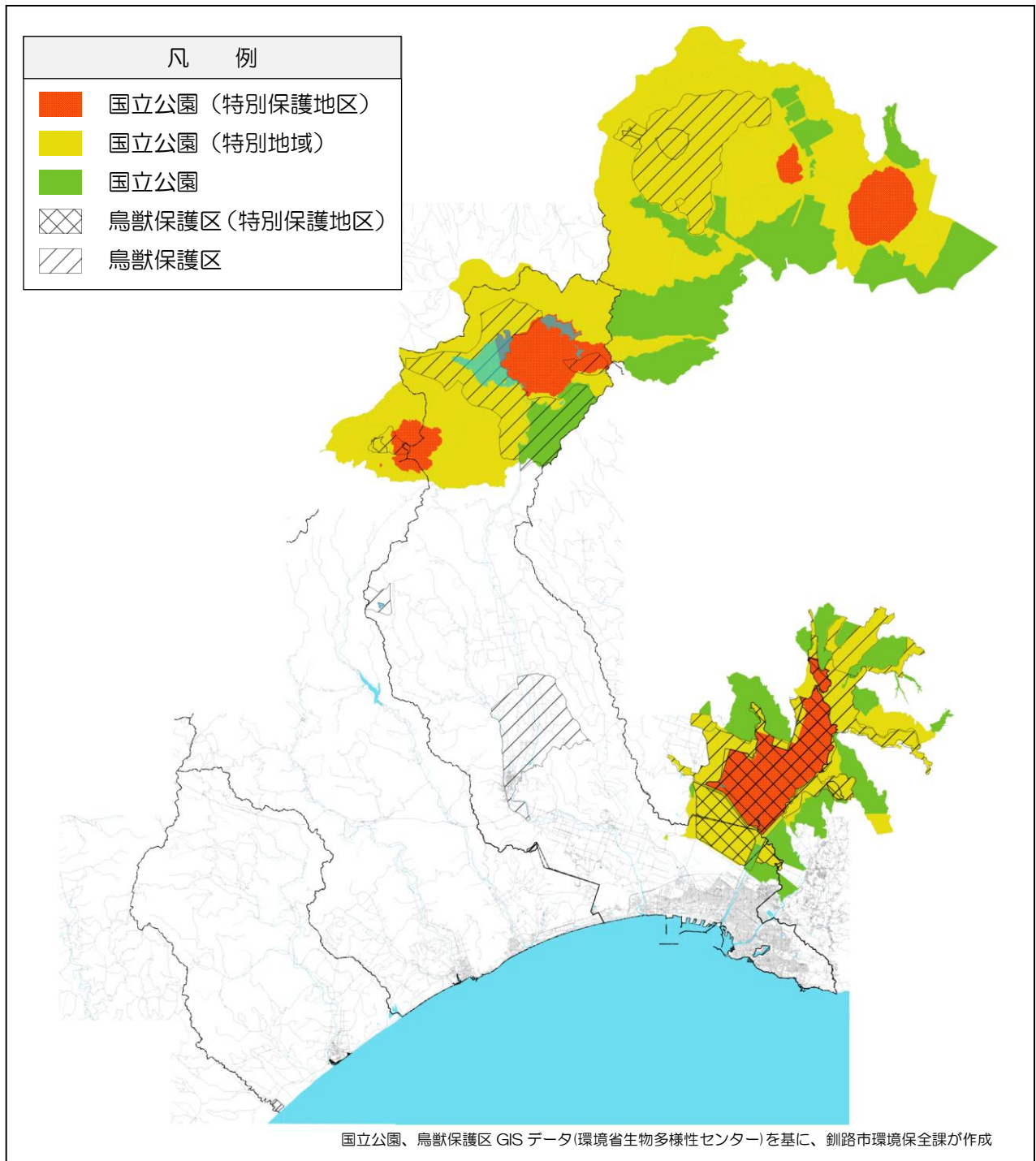


図 国立公園及び鳥獣保護区の指定状況

